

## まっすべな地平線とこれからの私

5年 E・Sさん

「まっすべな地平線」を読み終えた。悠介の家族がまたひとつになれそうで良かった、と嬉しく思った。と同時に、いくつもの疑問や、整理できない思いが、私の中でぐるぐる回りを出した。自分と他人。日本と外国。お父さんの生き方とお母さんの生き方。ミンミンのようになっすべ生きることで、空気を読んで生きる……。

日本人は空気を読むことを大事にしている。それは私たちを正しいことに向き合うことから遠ざけているように思う。失礼な同級生への、ミンミンのハッキリした物言いはとても胸がすっとするものだった。でも、私も明日から何でもハッキリ言おう、とは思えないのだ。私は、少くも自分が不ゆかいになっても事を荒だてたくないと思ってしまう。これは良くないことなのだろうか？ それほど単純ではないように思う。物語の中でも、悠介と同級生のその後は書かれていない。謝罪させられた同級生は悠介を恨んだかもしれない。そうしたら、ミンミンの行動は悠介にとって良かったのだろうか？ 私の日常でも、心にひっかかることがある。友達か他の人の悪口を言っているときとか。そんな時、私はどっしりしたらよいのだろうか……。

私がふだん気付かずにいたたくさんのお問い合わせ、この本が見つけ出してくれた。過去のことを思い出し、ああすれば良かったと思ったり、あれで良かったのだと思ったり、いろいろと考えてしまう。これらの問いは、いつか答えが見つかるのだろうか。答えは、ひとつだけではないのかもしれない、と思う。私の中で確かに感じるのは、これらのことを考えることが、私がいかにこの世界で多くの人と接していくために大切なことだということだ。答えはすっと見つからないかもしれないが、日々考えながら生きていきたいと思う。